

月刊誌「Stereo」8月号に付

録となつたフォステクスの2ウェイユニット。ウーファーは8cmのコーン型、最低共振周波数は約130Hz。仕様はバスレフエンクロージュアと密閉型に対応している。トゥイーターは20mmソフトドーム型でそれぞれの能率は83dBと84dB、近似している。ウーファーの高域再生能力は23kHzとフルレンジ並

だが専用のトゥイーターで2ウェイとして更に高域再生能力を32kHzまで伸ばし、また、歪感や指向特性を改善させているのが2ウェイ化した狙いだろう。本書の特別付録のエンクロージュア・キットはこのユニットの能力を手軽に引き出す、初心者向けのもの。組立も特に難しい所はない。

『特別付録』

2ウェイバスレフ型 エンクロージュア・キットのつくり方

今回のエンクロージュア・キットはコンパクトながら2ウェイ用、もちろん月刊誌「Stereo」8月号の付録スピーカーユニットを収めてシステム化するもの。今までのフルレンジとはかなり違う。再生レンジの向上もさることながら歪感も減らせる。さっそく付録のキットを組み立てよう

【キットの作り方】

製作工程は特に難しい箇所はない

が、斜めカットされた板材が組立作業用にテープで固定された昨年のキットと違つて今回のキットの板材はバラの

状態。板も特に厚いわけではないので

多少の慎重さは必要かもしれない。と

は言つてもゆっくりと作業を進めれば誰もが完成させられる内容だろう。

写真の順に作業の説明を進めることにする。【写真1】に写っているのが工

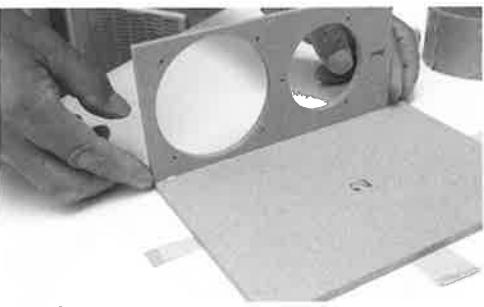
ンクロージュア板材の片チャンネル分、板番号①はフロントバッフルでユニットの取り付け穴が加工されている。大きさは184・5×87mm、板の厚さはすべ

り付け穴が加工されている。大きさは200×87mmでフロントのバスレフ部の分だけ天地の寸法が大きい。同④はエンクロージュアの天板で大きさは130×87mm、同⑤はエンクロージュア底部板で大きさは135・5×87mm、同⑥はバスレ



ポートを形成する仕切り板、大きさは 100×87 mm、以上がキットには左右2チャンネル分あるので初めに確認しておく。

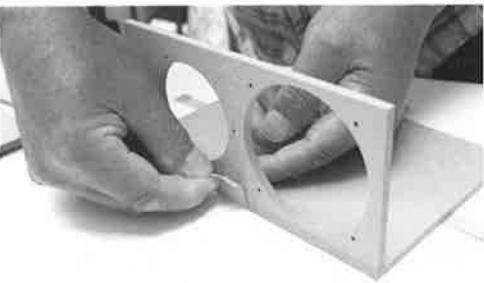
* * *



【写真3】



【写真1】



【写真4】

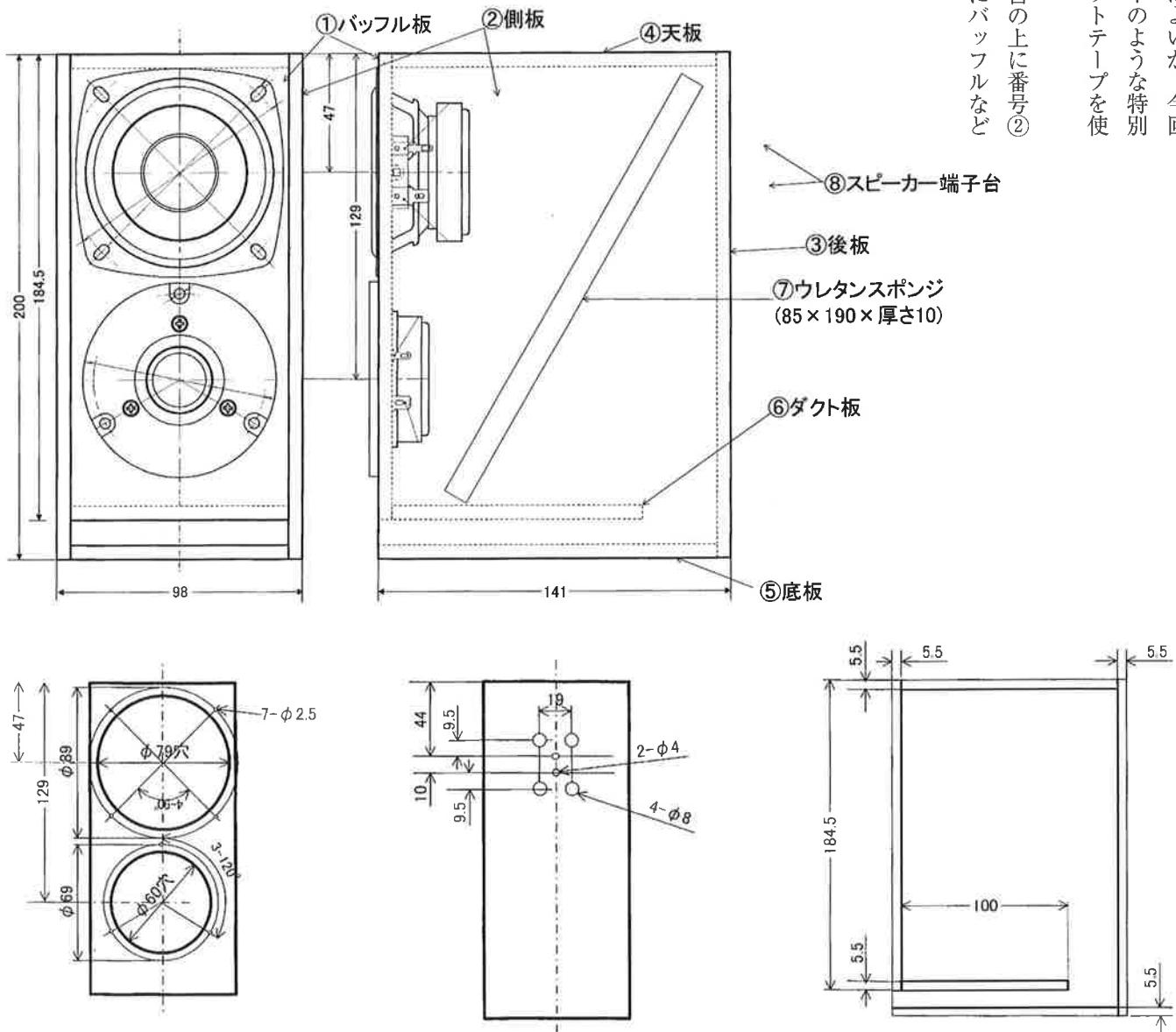


【写真2】

作業は自由に進めればよいが、今回の製作取材ではハタガネのような特別な工具は使わず、クラフトテープを使っての工作手順とした。

まず、工作する作業台の上に番号②の側板を置いてその上にバッフルなど

エンクロージュ・キットの構造と詳細寸法

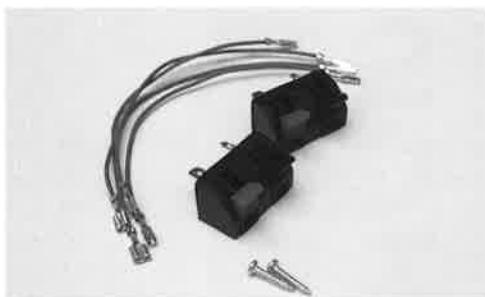


を接合していく。【写真2】でわかるように側板には板が接合される四辺にクラフトテープを貼っておく。番号①のフロントパッフルの一边に木工ボンドを塗る。あまり塗りすぎると出しが多くなつて処理に困るので注意しそう。フロントパッフルの下部にはバス

レフポートが来るので、【写真3】のようにウーファーの取り付け穴のある上部を側板の上の辺に合わせて接着する。次に予め用意してある側板に貼ったクラフトテープで【写真4】のようにフロントパッフルを固定する。固定とはいっても片側からテープを貼るだけなの

でそれ程シッカリはしない。ここから先はあまり乱暴な作業はできない。同じ要領で、番号③のリアパッフルを取り付ける【写真5】。この板は側板と接合する部分の寸法は同じ200mm。先ほど同様にクラフトテープで側板に固定する。

次は【写真6】、天板の接着となる。板の番号④の天板の三辺、フロントパッフルとリアパッフル、側板との接合部分に木工ボンドを塗布した後、フロントパッフルとリアパッフルを心持ち開いてそこに天板を差し込むようにセットする。ここもクラフトテープでま



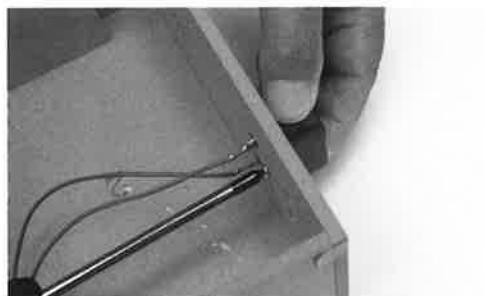
【写真11】



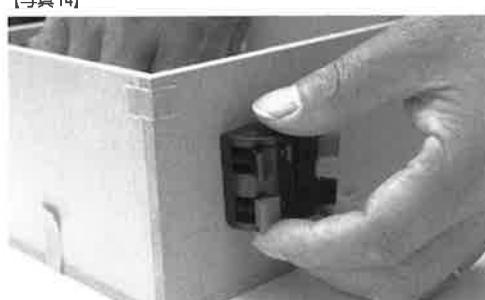
【写真12】



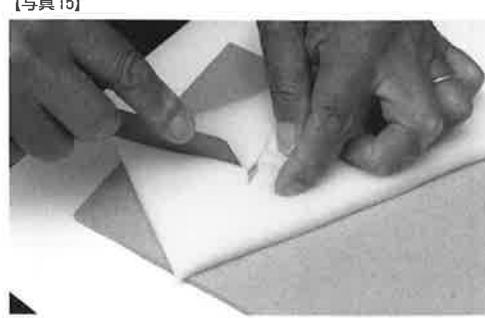
【写真13】



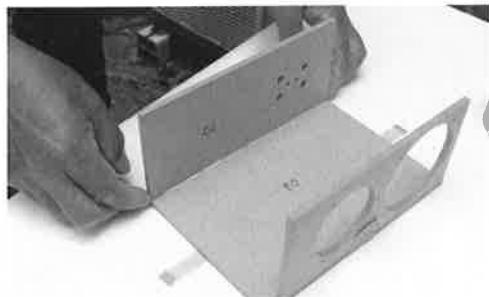
【写真14】



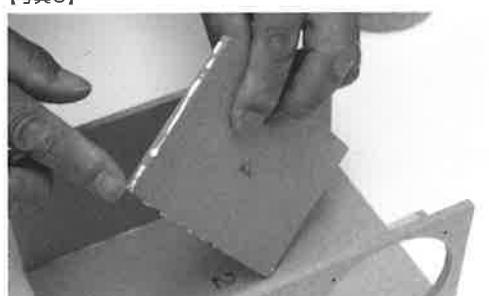
【写真15】



【写真16】



【写真5】



【写真6】



【写真7】



【写真8】



【写真9】



【写真10】

ず、側板と固定【写真7】、次に新たにクラフトテープを用意してフロントバッフル、リアバッフルの順に固定していく【写真8】。(今回の取材では板番号に合わせた手順としたが、リアバッフルをつける前に天板を付け、その後リアバッフルを取り付ける方がスムーズに作業が進むだろう。)

番号⑤の底板にはリアバッフルとの接合部分と側板との接合部分に木工ボンドを塗って接着、これも同様にリアバッフルと側板にクラフトテープで固定する【写真9】。ここまで作業が進むと、組立はかなりしっかりと安心する。次は【写真10】のバスレフダクトとなる部分を製作。番号⑥の仕切り板

をフロントバッフル下部と側板に接着剤で接合。底板ときちんと並行になるように取り付ける。

最後の側板を取り付ける組立作業を残した状態で、接着剤が完全に固まる前に接着した部分にズレなどがないかチェックし、不都合な箇所があれば修正しておく。

接着剤がよく固まるのを待つ間に内部配線と入力端子を用意する【写真11】。内部配線材のファストン(配線材の両端についている接続ピン)は幅の広いほうがプラス側、狭いほうがマイナス側で入力端子に挿し込む【写真12】。これをリアバッフルの端子取り付け穴に通し【写真13】、付属のネジでリアバッ

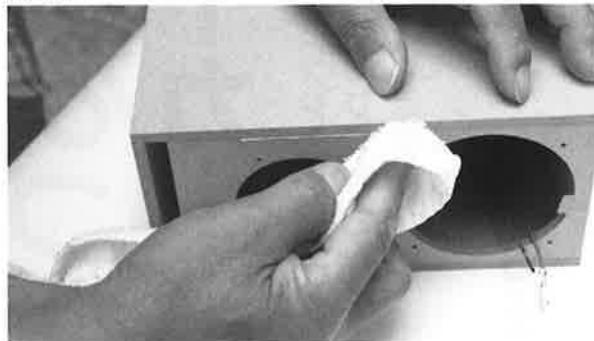
フルに止める【写真14】。トワイーター側が済んだらウーファー側も同じよう取り付ける【写真15】。トワイーター(下側)とウーファー(上側)の入力端子はプラスとマイナスの位置が逆になるのが正しい取り付け。トワイーターとウーファーのケーブルを通すための穴を、ウレタンの吸音材にカッターか鍛

を使って開ける【写真16】。内部配線材を吸音材に開けた穴に通しエンクロージュア内にセットする【写真17】。反対側の側板を接着剤で本体に取り付ければキットは完成、はみ出した木工ボンドは雑巾で拭き取る【写真18】。クラフトテープでしっかりと固定して完全に固定してから全てのクラフトテープをゆ

つくりと剥がそう。「Stereo」8月号の付録ユニットを【写真19】のように取り付ける。6dB型のネットワーク用のコンデンサーを配線図通りに入力端子につなげば【写真20】システムの完成。



【写真17】



【写真18】



【写真19】



【写真20】
入力端子の
2Wayスピーカー
結線

